



令和7年度全国学力・学習状況調査の結果報告と今後の取組

1 調査の概要

全国学力・学習状況調査は、文部科学省が小学校6年生、中学校3年生を対象とし、毎年4月中旬に国語科と算数科の学力や学習状況(生活習慣等)について全国一斉に調査を実施しているものです。また、3年に一度、理科の学力も調査項目に加えており、今年度がちょうどその年となります。

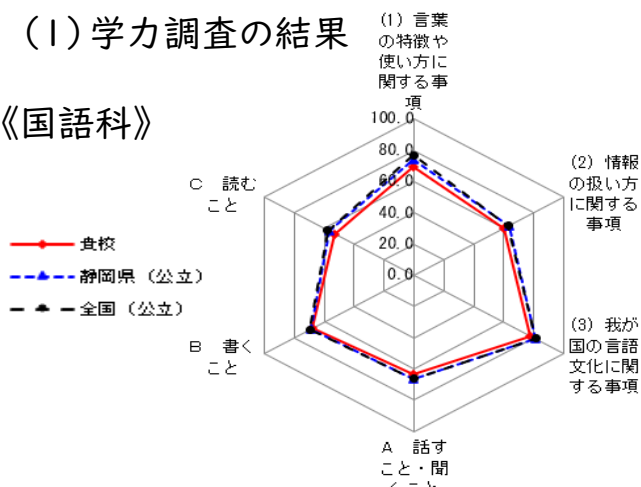
6年生の結果を通して、本校全体の子どもたちの状況や傾向を捉え、授業改善や学級経営に活かしていきます。

2 「全国学力・学習状況調査」(小学校6年生)の結果

(1) 学力調査の結果

※【 】は問題番号を表示しています。

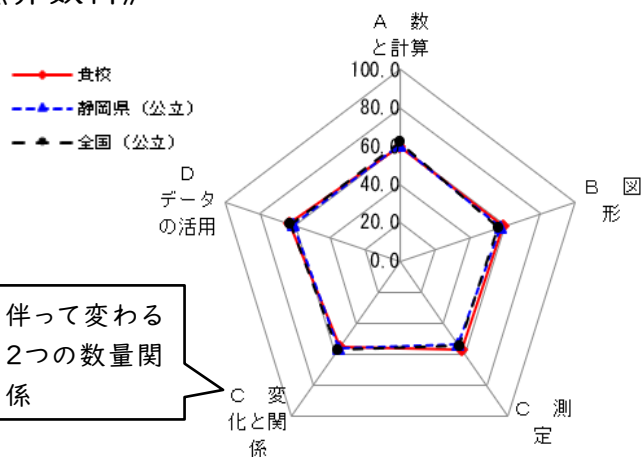
《国語科》



○目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付ける選択問題は、全国、県よりも正答率が高いです。【3三(1)】

●複数の資料を活用・関連付けて決められた条件を満たしながら解答する問題【3三(2)】は、全国の正答率を下回っており、無解答率も20%でした。

《算数科》



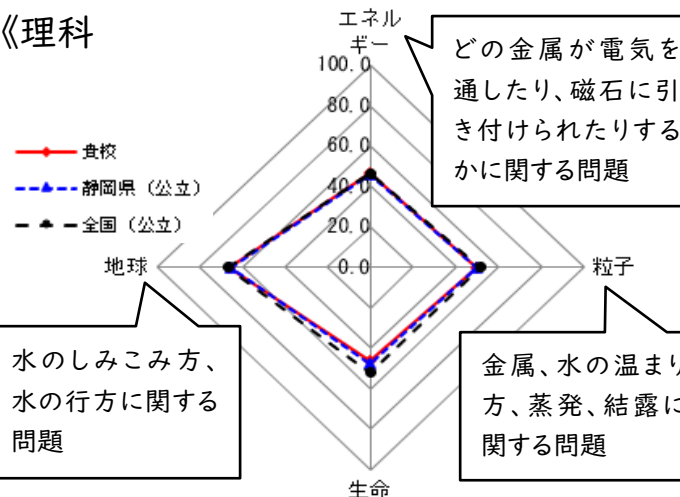
伴って変わる2つの数量関係

○小数の計算、角度やはかりの目盛りの読み取りなどの測定やデータの活用領域では、全国平均を上回っており、計算等算数科の基本的な知識技能が身に付いていることがわかりました。

●身に付けた知識・技能を活用して考えを解答する問題の正答率が低いです。【4(4)】「10%増量したつめかえ用のハンドソープの内容量が、増量前の何倍かを選ぶ」問題では、正答率が全国より3ポイント低い結果でした。「10%増量」が「増量前の1.1倍」と同じ意味であることを理解していない子どもが多く見られました。

● $3/4 + 2/3$ について「もとにする数」の意味や、「もとにする数」のいくつ分で表せばよいのか解答する問題の無解答率も20%でした。【3(2)】

《理科》



どの金属が電気を通したり、磁石に引き付けられたりするかに關する問題

水のしみこみ方、水の行方に関する問題

金属、水の温まり方、蒸発、結露に関する問題

○「身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物の区別【2(1)】」「電氣回路【2(2)】」「電磁石【2(3)】」等、理科としての基本的な知識を問う問題は、全国の正答率と比べ、上回っているものが多く、知識として定着していることがわかりました。

●種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、他の視点から分析、解釈して自分の考えを記述する問題は、全国の正答率と比べ6~10ポイント下回っており、無解答率が17%でした。

(2) 学習状況調査の結果

全部で71の質問がある中で、肯定値が全国との比較で特に高い項目(○)と低い項目(●)をまとめました。

- 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。
- 友達関係に満足していますか。
- 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。
- 自分には良いところがあると思いますか。
- 学校に行くのは楽しいと思いますか。
- 将来の夢や目標を持っていますか。
- あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って発表のスライドを作成したり、楽しみながら学習を進めたりすることができますか。
- 5年生までに受けた授業で、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか。

3 山名小の今後の取組

○「袋井型授業づくり」をベースとした「考える力」の育成

「袋井型授業づくり」とは、以下の3つの要素を核として、子どもたちの「考える力」を育むものです

1. 子どもが考えたいような、「?型の学習課題」を設定する
2. 自分自身の考えを深めるために、対話や議論の場を設定する
3. 学習課題に対し、自分自身の納得のいく考え(納得解)を書く「個のまとめ」の時間を設定する

今回の学力・学習状況調査の結果から、本校では、**自分の考えや思いを書くことに抵抗感が少なく、まとまった量の文章を書くことができる子どもが多い**ことが分かりました。これは、授業の中で、学習課題に対する自らの考えである「個のまとめ(納得解)」を書く時間を大切にし、継続して取り組んできた成果であると捉えています。

一方で、袋井市全体の結果(別紙「令和7年度 全国学力・学習状況調査の市全体の結果について」2(1)イを参照)と同様、自分の言葉で説明する問題については、**無解答率が高い傾向**にありました。

今後も、「袋井型授業づくり」をベースとしつつ、**子どもにとって考えたい「?型の学習課題」**を提示することで友達との**対話や議論を行うことの必要感**を生み出し、あきらめずに、粘り強く追究しようとする意欲や姿勢を育んでいきます。また、「個のまとめ」を書く時間の設定についても引き続き重視し、**子ども自身が、何を、どのように学んだかを自覚できる**ように支援していきます。

御家庭におかれましても、「山名っ子ノート」等の取組を通して、お子さんの「やってみたい」「調べてみたい」といった好奇心・向学心を受けとめ、引き続き御支援いただきますようお願いいたします。家庭と学校の繋がりによって、本校のすべての子どもたちの「考える力」がいっそう豊かなものとなることを願っています。